

① 海域を狭めない構造で検討（自立構造）

○自立構造では成り立たないことが確認された

○前面に石積部を設けて護岸の抵抗分を確保しないと、
構造上成り立たないことが確認された

（前面の石積を前提とし、石積と一体となった護岸構造が必要）
（前面の石積によって護岸部材の規格低減と、環境面への寄与が可能）

③ 地盤改良による構造を検討

○



3割勾配の概要
縦1、横3

()

1トン石での施工例：
千葉県野栄町吉崎海岸（ヘッドランド）

自然石での必要重量

1.5割

表の4割配

3割

4割

5割

1.5割 1.5割

1.5割

護岸構造の検討と比較

検討した護岸構造

- ①自立鋼管矢板
- ②自立式連続地中壁
- ③石積+鋼矢板（円弧スベリ抑止：H鋼杭）
- ④石積+鋼矢板（円弧スベリ抑止：鋼矢板）
- ⑤石積+連続地中壁
- ⑥控え杭式鋼矢板
- ⑦二重鋼矢板
- ⑧深層混合処理工法（C. D. M.）（護岸は擁壁タイプ）
- ⑨ガントコンパクション工法（S. C. P.）（護岸は擁壁タイプ）